

平成30年度 全国学力学習状況調査（鴨志田中学校の結果）

平成30年4月17日に横浜市立中学校3年生約2万5千人（鴨志田中学校3年生含む）を対象に実施された全国学力・学習状況調査結果の概要をお知らせします。

※義務教育学校、特別支援学校を含む

《 教科に関する調査結果 》

◎結果 AIは主として「知識」に関する問題、BIは主として「活用」に関する問題です。

「平均正答率（%）」

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
鴨志田中	80	69	71	50	67
全国との差	+4	+8	+5	+3	+1
横浜市	76	63	67	50	66
神奈川県	76	62	66	48	66
全 国	76	61	66	47	66

※文部科学省と同様に平均正答率は整数値で表しています。

◎調査結果に特徴のある問題（全国との比較）

【国語A】

- 意見文の下書きに一文を書き加える意図として適切なものを選択する問題が17ポイント高い
- 「紙をひもでタバねる」を漢字で書く問題が13ポイント高い
- 「意見の折り合いをつける」の意味が把握できているかを問う問題が12ポイント高い
- 段落の内容を入れ替えて書き直す理由として適切なものを選択する問題が12ポイント高い
- 新聞紙の製造工程の一部を言い表したのとして適切なものを選択する問題が11ポイント高い
- 「ひとえに」の意味が把握できているかを問う問題が11ポイント高い
- ▲ 二つの意見の内容を一文で書き加える問題が2ポイント低い
- ▲ 「池の水が凍る」を読む問題が3ポイント低い
- ▲ 「技を磨く」を読む問題が3ポイント低い
- ▲ 「それでは」の働きとして適切なものを選択する問題が4ポイント低い

【国語B】

- グラフから分かることについて適切なものを選択する問題が18ポイント高い
- 「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く問題が12ポイント高い
- 複数の辞書を引用して語句の意味を示す効果として適切なものを選択する問題が11ポイント高い
- 話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く問題が10ポイント高い

◎考察

【国語】

観点別にみると「書く」の正答率が高い。伝えようとする意識の高さに由来していると考えられる。漢字も「読み」より「書き」のポイントが高い。読めない漢字や理解できない漢字のある部分は前後の文脈で補ってしまっているのではないだろうか。その結果、漢字の「読み」が曖昧なままになっていることが予想される。また、「書く」とときには適切な表現を心がけるため、正答率が高くなっているのではないだろうか。

家族と家で話をする割合が高く、その中で自己表現を促されているようにも感じられるのが興味深い。新聞を読む率の高さが、グラフを読みとる力が高くなっていることの一要因になっていると考えられる。しかし、計画的な学習や考えの深まりにおいては課題が残る。本来の学習が持っている、本質を追究する楽しさに至る前に、日々の生活に追われ、生活リズムが乱れてしまう所にその原因があるのではないだろうか。

【数学A】

- 等式 $S = 1/2 ah$ を、 a について解く問題が17ポイント高い
- 三角形の外角を表す式を選ぶ問題が12ポイント高い
- 一元一次方程式 $6x - 3 = 9$ を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ問題が10ポイント高い
- 対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ問題が10ポイント高い
- $a = 3$, $b = -4$ のときの式 $a - 2b$ の値を求める問題が10ポイント高い
- 連立二元一次方程式 $5x - 2y = 10$ $3x - 2y = 2$ を解く問題が10ポイント高い
- ▲ ひし形が線対称な図形か点対称な図形か選ぶ問題が11ポイント低い
- ▲ 1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ問題が11ポイント低い

【数学B】

- 運行のようすが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ問題が12ポイント高い
- 平行四辺形 $ABCD$ の外側に2つの点 E , F を取っても、四角形 $EBFD$ は平行四辺形となることの証明を完成する問題が7ポイント高い
- ▲ 放送計画で、1日目が A , 2日目が B になる確率を求める問題が2ポイント低い
- ▲ 全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲 F が選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する問題が3ポイント低い

◎考察

【数学】

基礎的・基本的な問題を解いたり、証明したりする問題の正答率が高く、数学的な知識・技能はおおむね学習内容が定着していることがわかる。しかし、資料を活用し、問題解決の方法を数学的に説明する問題の正答率が低く、苦手意識が高い。

調査結果から、今後は基礎的な知識及び技能の確実な定着を図りつつ、資料を活用し、自ら考えたことを数学的に説明できるよう、言語活動を積極的に取り入れながら指導していきたい。

【理科】

- 風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能が活用できるかを問う問題が9ポイント高い
- 炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」が指摘できるかを問う問題が8ポイント高い
- 光の反射の規則性についての知識・技能が活用できるかを問う問題が6ポイント高い
- ▲ オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができるかを問う問題が10ポイント低い
- ▲ アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識が身に付けているかを問う問題が13ポイント低い

◎考察

【理科】

観点としては、科学的な思考・表現の観点のポイントが高かった。分野としては、生物的領域、地学的領域でのポイントが高かった。活用に関する問題でのポイントが高かった。科学の原子記号の問題と、物理の回路の問題では、正答率が低かった。

基本的な問題や知識を問う問題はおおむね理解できている。特に、思考を問う問題でのポイントが高いので、もっている知識を活用する力が身につけている。特に、生物分野、地学分野では学習内容が定着していることがわかる。しかし、科学分野や物理分野では知識の定着ができていない項目もあったので、実験を通して、様々な事象に関する知識を定着させたい。

《 生活習慣・学習習慣に関する調査結果 》（抜粋）

◎結果

主体的に学ぶ態度の育成に関わる質問事項のうち、いくつかを抜粋してお知らせいたします。

	鴨志田中学校の生徒数の割合(%)	横浜市の中学校生徒数の割合(%)
	H30年度	H30年度
自分にはよいところがあると思う	41 (+12)	29
将来の夢や目標を持っている	40 (-2)	42
人の役に立つ人間になりたいと思う	78 (+12)	66
朝食を毎日食べている	74 (-3)	77
家で、自分で計画を立てて勉強している	14 (-3)	17
家で、学校の宿題をしている	72 (+11)	61
家で、学校の予習・復習をしている	18 (-1)	19
学校の授業時間以外に1日3時間以上勉強している（塾や家庭教師を含む）	21 (+1)	20
家の人と学校での出来事について話す	57 (+16)	41
1, 2年生までに受けた授業や課外活動で地域と関わったことがある	42 (+21)	21
地域の行事に参加している	20 (+6)	14
地域や社会での出来事に興味がある	30 (+11)	19
地域社会などでボランティアに参加したことがある	37 (-11)	48
新聞をほぼ毎日読んでいる	8 (+4)	4
ニュースをよく見る	67 (+14)	53
1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、取り組んだ	24 (-1)	25
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた	31 (+4)	27

※（ ）内の数値は横浜市との比較

◎考察

この結果から読み取れることは、生徒は学校で出された課題に勉強時間を費やしている傾向にあるということである。反面、計画的に勉強を進める傾向が若干低いことも読み取れる。

生徒間で話し合う活動を通じて、考えを深め、広げることがB問題の高い結果につながっていると考えられる。

《 授業改善に向けて 》

調査結果から考えられる授業改善の視点は次のとおりです。

- ・「知識」に関する問題（A）だけでなく「活用」（B）に関する問題もよい傾向にあったことから、生徒に思考力、判断力、表現力等が身に付いていると考えられる。基礎的な知識及び技能の習得を図るとともに、引き続き、知識及び技能を活用して課題を解決する授業の展開が求められる。
- ・生徒が実生活や実社会につながる課題を自らが発見し解決する過程を通して、基礎的な知識及び技能を活用する場面を増やすことが大切になる。家庭・地域との連携を生かし、また新学習指導要領実施を踏まえて、主体的な学習習慣の定着に向けた取組を進めたい。
- ・教科等で学んだことを、その教科の中でだけ生かすのではなく、他の学習や日常生活に生かそうとする生徒の育成がこれからますます求められる。そのためには、教科等の枠を超えて、横断的な育成を目指す資質・能力を明確にしていく必要がある。
- ・生徒が身に付けた力を自覚することが、自分にはよいところがあると肯定的に捉えることにつながっていくと考える。そのため、生徒自身が「何ができるようになったか」「どのように学んだか」を実感できる授業が大切になる。
- ・生徒の視野を広げ、より広範な関わり合いを持つため、特別活動の時間を含めて、生徒同士が相互的に関わるができる機会を今以上に多くもうけることが必要である。

《 参考資料一覧 》

○文部科学省HP 全国的な学力調査（全国学力・学習状況調査等）

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm

○国立教育政策研究所HP 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

○神奈川県HP 全国学力・学習状況調査の結果について

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f531252/>